

有明高専だより

第 69 号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1013

印刷：重富 オフセット

新学科「電子情報工学科」について

校長 竹村 哲 男

大牟田、荒尾の両市、地元企業、同窓会、後援会あがりの強い要望により二年越しの平成元年、電子情報工学科の設置が確定になった。支援して頂いた各位、また此を受け入れて頂いた文部省当局に心から感謝の意を表したい。

一年遅れではあるが、本校の二十五周年、同窓会の二十周年事業として共に喜んで頂きたい。

一九八五年G5に端を発した門高の急激な進行に対する企業の対応については、身近な店に並んでいる商品の更替を見れば一目瞭然である。大量生産品の工場の海外移転により、安い輸入商品が店に溢れている。しかし米国のような国内の空洞化現象は現れていない。大量生産品の横には高度な先端技術による高価な製品が並んでいる。これらの商品には先端技術のハードに高性能なコンピュータソフトが組み込まれている。このような製品は付加価値の高い物で大量生産品ではなく、ニーズに応じて生産する製品である。この様な物を生産するコンピュータ統合生産の設備が急速に増加している。これを見ても分かるように、今後の新しい技術は、先端ハード技術と最新のソフト技術の融合によ

り進歩して行く。したがってハードに強い情報屋の需要は今後益々大きく成って行く。電子情報工学科は、このような技術者を養成する目的を持った学科である。

ところで、平成元年度の入学希望者は、新学科を含めた五学科に対して行なわれたが、全国第二位の高倍率であった。なかでも、新学科の人数が抜きんでいった。特に今年目立ったのは、女子の増加で、女子志願者数は全国一である。この新学科が従来の学科と互いに補い合い本校の活性化が計られ、優秀な技術者の養成がなされることを祈って止まない。

フーリエ変換赤外分光装置

（FT-IRと略称する。）

二月の始め、環境教育研究施設に、学内共同利用の装置として、米国ニコレー社製FT-IR710型を本体とするシステムが設置された。在来、IR法は、物質の構造解析に有効な手段であり、広く利用されてきた。IR法は、一九五〇―一九六〇年代に発展した。

一九七〇年代に入って、干渉計を用いた新しいFT-IR法が發展し



フーリエ変換赤外分光装置

*FT-IR
Fourier Transform Infrared Spectroscopy

てきた。これは、干渉計で得られる干渉曲線をコンピュータにより解析可能なIRスペクトルに高速にフーリエ変換するもので、そのためこの名称（フーリエ変換）がある。

本法は、高感度測定、高速測定が可能で、多種類の附属装置、分離装置等との接続により、極めて広範囲の物質を測定対象とする。又コンピュータ及びソフトウェアにより高度なデータ処理によって、物質の構造（その変化）解析を行い得る。

多方面の方々の御利用を期待している。

10	9	8	7	6	4	3	2	1
吹奏楽部定期演奏会	飛び地・県境物語	フォト・ストーリー	冬季球技大会	学生会役員研修	体育系クラブ指導者研修会	クラブ学生表彰予定者一覧	卒業生による建築設計競技	新学科「電子情報工学科」について

第22期生 卒業研究テーマ

平成元年3月卒業予定学生諸君の卒業研究テーマを学科別に示す。報文番号・報文題名・指導教官名・学生氏名の順に示す。

機 械 工 学 科

1. 二重管熱サイホンに関する研究 (吉田) 石原 剛・三浦康弘
2. 高Mn 鋳鋼の疲労亀裂に関する研究 (大山) 大村茂則・篠原政光
3. PSPCを用いた微小部X線応力測定装置の測定精度 (宮川・大山・石崎) 浦部 真・菊池隆弘
4. 純金属における高温変形応力の変形経路依存性 (宮川) 藤井直人・山田正信
5. ICを用いた論理回路に関する実験装置の開発 (川崎) 江上勝弘
6. オペアンプを用いた回路に関する実験装置の開発 (川崎) 伊藤昌明
7. パンコンを用いた倒立振子の制御 (川崎) 小川一矢
8. パンコンを用いたロボットアームの制御 (川崎・田口・南) 荒木 学・太田浩文
9. T継手における気液二相流の研究 (面積比が1の場合) (猿渡) 秋山靖洋・河野達三・行武康一
10. T継手における気液二相流の研究 (面積比が1以上の場合) (猿渡) 野田英志・元松 勉
11. 水平伝熱面からのサブクール核沸騰熱伝達 (庵原) 赤木大介・金井博文
12. 二成分系混合媒体の核沸騰熱伝達 (庵原) 城戸義之・石田恭一
13. 浮動ブッシュ軸受に関する研究 (倉橋) 河野正治・平池貴一
14. 滑り軸受実験装置の設計製作 (倉橋) 平川史郎・藤崎 崇
15. 熱間鍛造用金型に関する研究 (南) 内田法久・古賀哲也
16. 回転壁面噴流の安定性に関する研究 (山下) 安島義和・川本 剛
17. 学習要素の階層的構造 (石崎) 岩村武志・西原竜二
18. 深穴あけ盤の改造 (田口・明石) 長岡謙一・日巻正和
19. 深穴あけにおける曲がりの制御 (田口・明石) 井本隆視・古莊 弘
20. ボールエンドミルに関する研究 (田口・明石) 穴井憲一・木村 良
21. MCの学生実験方法の開発 (田口・明石) 杉浦 親・平野雅和
22. パンコンを用いたCAIシステムの作成 (山下) 小笠原勝洋・山本章吾

電 気 工 学 科

1. デジタルサーボ系の研究 (荒木) 三輪哲哉・立山 裕
2. デジタルコントローラにおけるオートチューニングの研究 (荒木) 守田 聡・野田 真
3. プログラマブル・コントローラを用いたシーケンス制御の研究 (須藤) 兼行喜治・長島真一
4. インバータ駆動誘導電動機特性 (須藤) 徳潤洲・神崎 優
5. 分布定数回路のパンコンを用いたシミュレーション (辻) 荒木正之・飯屋 功
6. A/D、D/A変換器の研究 (近藤) 手島康裕・古嶋純志
7. PALライターの試作 (近藤) 松田 治・宮本 清
8. 領域分割法による数値電界計算 (浜田) 津留崎 晃・瀬戸淳一
9. 同軸円筒電極イオン流場の電界測定 (浜田) 橋本隆義・岩下朋享
10. 振動のパンコン・シミュレーション (小沢) 清田幸義・金沢健一
11. 磁歪振動駆動・検出コイルの特性 (小沢) 新谷俊幸・野田 宏
12. ホログラフィー干渉計測 (永守) 緒方秀幸・林 武晃
13. パンコンを用いた信号処理 (中原) 田淵佳苗・白仁克典
14. 昇降圧形コンバータの基本特性解析 (中原) 原 泰介・前田淳次

工 業 化 学 科

1. 第二りん酸カルシウムとフッ素イオンの反応 (木佐木) 徳永千奈美・丸山 茂

2. シランカップリング剤による沈澱シリカの変性 (木佐木) 関戸康則・藤田 明
3. カチオンおよびアニオン交換基を含む液体膜の膜電位 (塚本) 越本 章・山根朋行
4. イオン交換液体膜のイオン選択透過性 (塚本) 石橋ゆかり・柴田浩史
5. オイバーギットC粒子による酵素の固定化と得られた固定化酵素の反応特性およびセンサーへの利用について (永田) 浦川 康・亀崎敬介・古江道明
6. ポリエーテルグリコールの熱分解ガスクロマトグラフィー (吉武) 山添茂樹
7. ポリエステルグリコールの熱分解ガスクロマトグラフィー (吉武) 杉原 隆
8. 熱分解ガスクロマトグラフィーによるポリウレタンの定性分析 (吉武) 高田新吾
9. ポリエーテルグリコールの高分解能熱分解ガスクロマトグラフィー (吉武) 川添 亨
10. ポリエステルグリコールの高分解能熱分解ガスクロマトグラフィー (吉武) 戸上要治
11. 高分解能熱分解ガスクロマトグラフィー (吉武) 谷口日出雄
12. 親水性ゲルの製造 (松本) 松原健一
13. 疎水性ゲルの合成 (松本) 中島陽子・村本伸二
14. イオン交換体の製造 (松本) 西山隆二
15. 低圧における気液平衡関係の測定と熱力学的健全性の検討 (渡辺) 原 篤・和田理昭
16. PC-98XLによるHerington法に基づいた健全な気液平衡データの推算 (渡辺) 高近幸三郎
17. PC-8801mkII SRによるデータの整理、およびHollaの方法による図の作成 (渡辺) 境 勝美
18. CMD (化学合成二酸化マンガン) の酸処理とその処理物の特性 (宮本) 米井英伸
19. 乾式酸化によるγ型CMDの合成とその特性 (宮本) 飯島多美子
20. クロレート反応によるCMDの重質化処理とその処理物の特性 (宮本) 瓦田貴之・村田和彦
21. 有機電解液中におけるMn₂O₃の強放電特性に関する要因解析 (宮本) 前田孝行
22. イオン電極検出器による界面活性剤イオンのフローインジェクション電位差分析 (正留) 金川達也・高岡 稔
23. 界面活性剤イオン電極の性能の検討ーイオン交換サイトを含有電極と含まない電極の性能の比較 (正留) 小坂圭吾

建 築 学 科

1. 動的荷重をうけるRC柱の変形と耐力に関する基礎的研究 (その2 コンクリートの動力学特性とRC柱の挙動) (玉野) 荒山千秋・坂井 典・島田孝典
2. パッシブソーラーハウスの性能に関する実験的研究 (吉岡) 金子義信・木村靖浩・古方徳和・田中健吾
3. 残留応力のある鋼材の疲労寿命 (原田) 網頭重幸・黒崎清光・重松 徹・安川和利
4. 公共図書館の建築計画に関する研究 (新谷) (新しい平面手法の検討) 入来武雄・丸山浩史
5. 欧米の病院建築計画に関する研究 翻訳「Design for Health Care」(新谷) 江田哲哉・横田英二
6. 一方向型吊屋根のフラッタ発生機構に関する研究 (三宅) 小柳 典・国房俊二・細川英彦
7. イギリスの障害児教育施設に関する研究 (北岡) 石田由紀子
8. 独立住宅の空間構成手法に関する研究 (北岡) 熊野康彦・小宮国枝・平川聖剛
9. 明視照明に関する研究 (視力と知覚対比との関係) (山下) 泉 茂・今福信幸
10. 文献による日本のホールの音響特性に関する調査研究 (山下) 福田修一・横田 肇
11. イスラム建築に関する基礎的研究 (宮本) 一ウマイヤ朝における諸建築について 大野明子・南島茂晴・西 智彦
12. 腰壁・たれ壁・そで壁付部材に関する実験資料の解析 (終局強度について) (上原) 鍾水岳年
13. 腰壁・たれ壁・そで壁付部材の曲げ強度と変形性能に関する解析的研究 (上原) 藤本正好
14. 耐震壁の剛性マトリックス (壁板を隅節点3自由度を有する長方形平面要素とする手法についての検討) (上原) 伊形孝士

平成元年度 入学志願者数

平成元年度の入学志願者は、今後とも続くものと思われる。

学科	志願者数
機械工学科	一八一名 (一名) 四、五倍
電気工学科	一六八名 (三名) 四、二倍
工業化学科	一一〇名 (二六名) 二、八倍
建築学科	一一一名 (三四名) 三、三倍
電子情報工学科	一九五名 (三七名) 四、九倍
合計	七八五名 (九一名) 三、九倍

学科	志願者数
工業化学科	五・一〇名 (吉武他一名)
建築学科	五・一〇名 (吉武他一名)
電子情報工学科	五・一〇名 (吉武他一名)
電気工学科	五・一〇名 (吉武他一名)
機械工学科	五・一〇名 (吉武他一名)

工場見学

1月25日 3M
三井東洋化学(株)大牟田工業所
ダイキン空調システム展

2月6日 2M
三井東洋化学(株)大牟田工業所
ダイキン空調システム展

平成元年度 研修旅行計画

機械工学科

- 引率教官未定
- 5・10(木) 大牟田発→博多→広島
 - 着、マツダ(株)本社工場見学→大阪着
 - 5・11(金) ダイキン工業(株)堺製作所見学→松下電器産業(株)本社技術館見学→京都着
 - 5・12(土) 終日、京都市内自由研修
 - 5・13(日) 京都市内見学→京都発→博多着解散

電気工学科

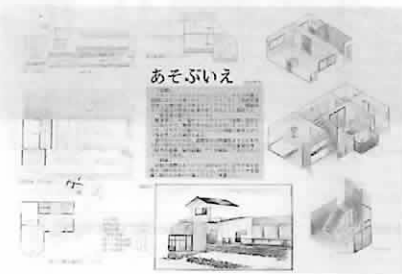
- 引率教官 松野他一名
- 5・10(木) 大牟田発→博多→西明
 - 着、富士通(株)見学、兵庫発→京都着、京都宿泊
 - 5・11(金) 三洋電機(株)中央研究所、大日本スクリーン製造(株)見学、京都宿泊
 - 5・12(土) 京都市内見学、午後自由研修、京都宿泊
 - 5・13(日) 京都→大牟田(未定)
 - 京都市内見学、京都市下京区六条通、鳥丸西上ル
 - 新湯旅館 (TEL 075・351・6452)

建築学科

- 引率教官未定
- 5・10(木) 学校8:45発→福岡空港→羽田空港→新宿NSビル→東京泊
 - 5・11(金) カテドラル大聖堂→後楽園エアー・ドーム→国立西洋美術館→東京文化会館→東京泊
 - 5・12(土) 終日グループ研修→東京泊
 - 5・13(日) 代々木体育館→NHK放送センター→羽田空港→福岡空港16:30着・解散



知事賞を受賞した古賀君の作品



銀賞を受賞した矢富君の作品

「福岡県内工業高校生並びに専門学校生による昭和63年度建築設計競技」入選

本年度の福岡県建築士事務所協会の設計コンペは例年とかわり、工業高校生と専門学校生の部にかれて行われました。設計課題は「セカンドハウス」「ベンション」と比較的設計しやすいもので、設計条件も傾斜地立地と敷地面積のみが与えられ、敷地形状等は定められておらず、わりと自由度をもたせた課題でしたので、2年生も含め12名が応募し、以下の10名が入選しました。今後の励みになればと思います。

次回は、4・5年生もどんどん

応募してほしいものです。

● 高校生の部

知事賞 古賀誠也 (3A)

銀賞 矢富 保 (3A)

銅賞 巻口義人 (3A)

佳作 古瀬秀幸 (2A)

中村敏宏 (3A)

井上智明 (3A)

久米健一 (2A)

森 万年 (3A)

姫野達雄 (2A)

● 専門学校生の部

協会賞 平川聖剛

団体の部優秀学校賞 (北岡 記)

卒業を前にして

機械工学科 山田 正信



この有明高専に入学して五年、今年の三月で卒業する。五年間、始まる時は長い、終わってみると短かいものである。クラブの合宿にしても、テスト期間にしても時間というのは、長い目でみるとそういうものだ。

五年前、中学三年の秋自分は、友人二人と地元長崎のS高専を受験するつもりであったが、有明高専には推薦制度があると聞いて何の迷いもなくS高専からこの有明高専に入学したのである。理由はもちろん試験がなく作文と面接だけであったからである。そして、なんと合格することが出来た。入学して最初は、自分はクラスでどの位の順位なのだろうか、推薦は成績が悪いと呼び出されはしないかという不安があった。入寮して寮生活を始めるに精神的に参ってしまったと思っていたが、半年もすると馴れてしまい二年生になると

高専生活、寮生活というのがどういふものなのかと解かって要領よく今まで過ごして来た。

五年生になり、今度は入試ではなく人生を決める就職試験が待っていた。自分なりに悩み、真剣に考え希望する会社を決めた。そして会社訪問に行くのと何となくここでもちよとした作文と面接だけだった。これは思ってもみなかったことである。そしてまた内定通知をもらうことが出来た。何だか世の中がうまく行き過ぎてこの先不安であるが、自分には運があるものだと思ひ、就職してから高専に入学してからと同じように要領よく、これは、楽をするという意味ではなく、今からいい仕事が出来よう、いい人生が送れるようにがんばりたい。

最後に、高専生活で学生会役員寮の役員をさせてもらい、クラブをさせてもらい、そして何よりも機械工学科を教えてくれたこの有明高専と、御指導頂いた教官、技官及び職員の方々に心から感謝して卒業したい。



電気工学科 緒方 秀幸



昭和五十九年の春、有明高専の門を高専生として初めてくぐった日の事が、ついこの間の出来事の様に感じられる。長かったようでも短かった五年間の高専生活が走馬燈の様に頭の中を駆けめぐる。今、年号も昭和から平成へと変わり、私達の新しい出発点として区切りをつけられたような感じさえ受ける。変ったのは年号だけではない。私も、周りの友人達も五年前と比べ、多少の成長はしている。

私の五年間で一番大きな出来事は学生会長という仕事が出来たことだ。皆の先頭に立ち学生会の運営に携わるといふ事が、実際にやってみて実に大変な事だと痛感した。四年生までの自分は、自分の事だけを考えていたような気がする。でも、五年生でこの仕事を引き受けてから、今まで他人の様に考えてきた先輩方の苦労を知り、自分だけでなく、周囲のスタッフや協力してくれる人々がいたからこそ仕事ができる事を知った。又、同時に自分たちで計画し、それを無事成功させた時の喜びは素晴らしいものである。どこへ行っても

周りの人々の協力によって仕事ができる訳だし、私たちの生活も周囲の人々によって常にサポートされている事実を忘れない様にしたい。かくして私達は卒業する事になった。卒業生はほとんどは技術者として、これから社会に出るわけだが、これからはもう「学生だから」という言葉はない。あるのは「社会人としての自分」であり、

「社会人としての自分」であり、自覚を持った考え、行動、生活が問われる事になる。これから何十年か後に日本の屋台骨を支える技術者になる為には今の何倍も苦勞することとなるだろう。高専の五年間がこれからどう生かされるかわからないが、いままでの苦勞や喜び、周りの人々の協力が無駄とならないよう頑張りたい。そして人間的にも何倍も大きくなる事が、両親や周囲の人々の為にもなる事だと信じている。

最後に、この五年間共に学んだ友人達、そして指導して下さいました諸先生方、関係者各位に心から感謝したい。

工業化学科 石橋ゆかり



「時間はまるで砂の梯子だね。昇ればサラサラと思ひ出に変わる」

五年生の皆様へ

学生会長 4M 松尾 泰久

い。これほどの喜びはないと思います。その為には、自分はこの有明高専の学生だと自覚を持って下さい。あなたは自信を持ってはつきりとしていける事ができます。自分達の学校の出来事、自分に関係の無い事ならば、すぐ他人の事の様に考えてはいませんか。自分に出来る事ならば、わずかながらでも、手を貸してやろうという人が、一人でも二人でもいから増えてくれるのなら、学校生活はきっと良いものに変わっていくと思います。大きな業績を残すことだけが学校に歩を進める事だとは限りません。あなたに出来る事なら身の周りのささいな事でかまいません。自己の利益の為、公共の利益の為、自ら進んで行して下さい。たとえ他人が認めなくても、自分で一所懸命にしているのならば、地道な事でも、一所懸命にすれば、あなたの気持ちの中にいつまでも想い出として残るはずです。

そして一日一日、だれもが驚きの感覚を与えられるような学校生活を行い、最後にはあなたの方の力でこの有明高専に驚きの感覚を与えて下さい。それが進歩に連がるのではないのでしょうか。

私達も先輩方がつくって来た五年間の数々の歴史に負けることなく最上級生としての責任をもって努力していきたいと思っています。知っての通り先輩方が羽ばたいていく社会においての日本の現在の社会状況は、資源が乏しいため技術立国以外に道はないという考えでなり振り構わず進んで経済大国と云われるまでになりましたが、このために状況は悪化し、アメリカの経常的な貿易収支の赤字もともなう、貿易摩擦、円高、農産物自由化による日本農業の変革、等々難問が山積という感じではないかと思われまふ。しかし、社会に出ていられる先輩方にとって、このような時に出ていかれるという事は、かえってやりがいがある時ではないでしょうか。先輩方がこの学校で養われた知識と精神力があればきっとこれらの難問に打ち向うことができると思います。自分のもてる力を無限に発揮し社会に貢献することを期待しています。皆さんの可能性はまだ未知数です。皆さんの可能性はまだ未知数だということを忘れないで下さい。最後に、今まで私達の良き指導者として、又良き相談相手として、大変お世話になったことを、深く感謝したいと思います。そして五年生の皆さん、この有明工業高等専門学校で過ごされた日々を胸に刻みそれを誇りにして巣立つていかれることを望みます。

の梯子が終われば、次の新しい梯子、社会人という名の梯子を昇り始めるのである。

新しい梯子は、今までのように簡単に上に進むことは出来ないであろう。足を踏みはずすことも出来ないであろう。それでも止まることなく、昇り続けなければならぬ。そして、新しい砂の山を作り続けるのである。

新しい山には、今までとは違った種類の砂が積み重ねられていくのである。その砂は、今まで自分が知らずにいたものであるだろう。それでも、この新しい砂の山が出来上がるころには、また一つ、人生の節目を迎え、積み重ねて来たものの重さに気付くのであろう。そして、きっと新しい梯子に思いをはせるのであろう。

その日がいつになるのか知るよしもないが、その日が来るまで、一段一段大事に昇っていかねばならない。

最後に五年間にわたり、未熟者の私に、温かく御指導下さった諸先生方、ならびに職員の方々に感謝し心より御礼申し上げます。

建築学科 熊野 康彦



皆さんは、「一所懸命」という言葉を知っていますか。けれども、がいたる所で耳にする様な簡単な言葉ですが、あなたは実行していますか。

僕もこの有明の地で五年間という時を過ごしてきたのですが、ただ何も無いうちに五年間が過ぎてしまった様な気がします。「一所懸命」そう、つまり物事に命がけで取りくむこと。この簡単な四字の言葉が今とはとても重要な事のように思えてきます。学校生活の中で勉強するという事は、あたり前のことで、まだこの他に多くの重要な事があったのではないかと思います。学校行事で言えば、体育祭、高専祭、球技大会、遠足などがあり、その他にも、クラブ活動、寮内行事などありましたが、これらすべての事を思い出して残すことができなかった事を今でも少し後悔しています。ただ定例化した行事を何の考えもなしに事務的にすすめてきた事が何か虚しく感じられます。後悔先に立たず、自分がおかした事は、もうすんでしまったのでしたくない事なのです。また来年この様な文章を書く者がいない様、在学生の皆さんで、有明高専に何か進歩を与えて下さい。五年間も同じ所にいて、同じ事を毎年行っていたら、飽きてしまうのもあたり前の事です。だから何かあなたの方で新しい事をしたという軌跡を残して下さい。



新寮長に就いて

4M 倉本 浩司

突然、巨大な荷物が、背の中の上に、「どかつ」とおちてきた。とても重たい荷物であった。とても立ってられない。これは困った。今、僕はこの巨大な荷物の横に座りこみ、腕を組んで、考えている。この荷物をどうすれば持ち上げられるのだろうか、そしてどうやって運んでいこうか。その大きな荷物には肉太の字で「責任」と書かれてあった。

予餞会

送 辞 4M 倉本 浩司

今、僕の心境を想像すると、こんな感じだろうか……
寮長をやることになった。いつも思うことだが、人が人を指導するというのは、とてもむずかしいものである。しかも同年代の人間をまとめるのだから尚更の事

平成元年度寮生会役員紹介

寮長	4M 倉本 浩司
副寮長	3A 中村 敏宏
総務	4M 柴田 健一
渉外	4A 石橋 登
会計	4M 青柳 崇
風紀	4A 増田 順也
副局長	3A 古賀 勇二
整美	4E 下条 哲也

長く思われていた岱明寮での生活も後わずかです。時の流れがこれ程速いものなのかと驚き、悲しくさえ思われます。今先輩方の心のスケッチブックの中には、どんな美しいで、何度も立ち上がって下さい。もし、力尽き、負けてしまいたいようなとき、その壁を乗り越えていった先輩を思い出して下さい。そして、ぐさぐさ、壁にぶつかり続けている友人を見て下さい。



た心で飛び立とうと思う。

がないよう精一杯努力したいと思っています。それが残された者達の義務だと思っています。
卒業を迎える先輩方、いつまでも前向きな姿勢を忘れない立派な社会人になって下さい。そして、この日本の常識を打ち破るような技術者になって下さい。

答 辞 5A 江田 哲哉

春。魁の春。桜の花びらが穏やかに舞い降りてくる春。暖かな陽光を背に受け、希望と期待に満ちた一五歳の春を、私達はこの岱明寮で迎えた。

初めての寮生活は非常に息苦しい生活であり、退屈な生活でもあった。希望も期待もかなうこととは

辛い事も友人の前では忘れることができた。

夏。暑い夏。昼は高い所から降りそそぐ日差しが私達の身体を照りつけ、夜は肌を生温かい風が当たり眠れない夜が幾晩も続いた。

この寮での夏の代名詞はクラブである。皆、目の色を変えて練習に励む。夕方遅くまで練習をし、食事、風呂、そして勉強せずに床につく。蒸し暑い部屋で布団の上で疲れをいやしなう、夏休みを

クラブ学生表彰予定者一覧

〔体育局〕

- ◎硬式野球 (3名)
 - ◎石原 剛
 - ◎三浦 康弘
 - ◎村本 伸二
- ◎軟式野球 (4名)
 - ◎手島 康裕
 - ◎松田 治
 - ◎古嶋 純志
 - ◎瀬戸 淳一
- ◎硬式庭球 (4名)
 - ◎江上 勝弘
 - ◎河野 正治
 - ◎高田 新吾
 - ◎黒崎 清光
- ◎卓球 (4名)
 - ◎小川 一矢
 - ◎秋山 靖洋
 - ◎岩下 朋亨
 - ◎小柳 典
- ◎ラグビー (4名)
 - ◎穴井 憲一
 - ◎城戸 義之
 - ◎石田 恭一
 - ◎国房 俊二
- ◎サッカー (11名)
 - ◎西原 竜二
 - ◎徳永 潤史
 - ◎緒方 秀幸
 - ◎杉原 隆
 - ◎原 篤
 - ◎和田 理昭
 - ◎江田 哲哉
 - ◎古方 和徳
 - ◎平川 聖剛
 - ◎安川 和利
 - ◎鎌水 岳年
- ◎バレーボール (2名)
 - ◎井本 隆規
 - ◎山田 正信
- ◎バスケットボール (4名)
 - ◎藤田 明
 - ◎島内 孝典
 - ◎重松 徹
 - ◎丸山 浩史
- ◎柔道 (1名)
 - ◎金川 達也
- ◎剣道 (2名)
 - ◎山田 正信
 - ◎丸山 浩史



他の文化クラブは該当者なし。

〔文化局〕

- ◎吹奏楽 (1名)
 - ◎小宮 国枝
- ◎英語研究 (1名)
 - ◎田淵 佳苗

体育系クラブ指導者研修会

本校ではクラブ活動の活性化を目指して、毎年各クラブの部長、副部長等各部のリーダーを集めて指導者研修を行っている。今年は12月3、4日舞台を阿蘇青年の家として行われた。山には前日の雪が残る、すがすがしい気持ちで研修に臨んだ。研修テーマは第一テーマが一年生の指導について、第二テーマが部の目標設定について、第三テーマが部の強化策についてであった。それぞれのテーマについて約一時間、各部の現状報告や意見を述べ合い討論がなされた。



今から先、部を指導していく上で大きな指針になったと思われる。また二日目はレクリエーションとして、各部顧問も入ってビーチバレー大会をやった。このように教官学生が一緒にプレーすることはめったに無く、和気あいあいの雰囲気が出来、非常に有意義であった。

学生会指導者研修会

本年も例年通り12月10日(上)、11日(日)の2日間に行なわれて大牟田ハイムで学生会役員研修を行いました。参加者は会長の松尾君以下十九名と学生主事から辻先生、大山先生、永守先生、中島先生が出席されました。

土曜日は学校で主事室の先生方を交えてのソフトボールで親睦を深め、五時に送迎バスで大牟田ハイムへ移動しました。夕食休憩後の研修では新役員の自己紹介と抱負が語られ、その後来年度学生会行事について逐一検討を行いました。

新学生会の主な抱負、要望は以下の通りです。

- 学生会活動を更に活性化して行きたい。例えば、新人生オリエンテーションへの学生会役員の参加。校内巡回を行い校内整美の徹底等。
- 放送の音質が悪く聞き取り難いため生会の召集、連絡が徹底しない。
- 提案 直ちに改良できないのでさしあたり出席簿に学生会の連絡事項をさしきり1時限目の先生に連絡をお願いする。

冬季球技大会

昭和六十三年度冬季球技大会が十一月二十九日(火)に行われた。前日の夜から雨が降り、グラウンドでの競技が困難なため、競技種目を変更して、サッカーをバレー、ハンドボールを卓球に変え、バスケットはそのままだ行われた。

今年、サッカーで三年連続優勝を目指して、毎日のように練習してきた4Cは、サッカーが変更され、達成することが出来なかった。

また、今大会活躍したのが、3Eでバレーと卓球に優勝し、完全優勝は逃がしたものの、卓球でV2を達成した。

今大会の最優秀クラス、優秀クラス、各種目の優勝チームと最優秀選手は次の通りである。

- ▽バレー
 - 優勝 三年 電気
 - 個人 吉山 武雄
- ▽バスケット
 - 優勝 五年 建築
 - 個人 黒崎 清光
- ▽卓球
 - 優勝 三年 電気
 - 個人 前田 武宣
- ◎最優秀クラス
 - 三年 電気
- 優秀クラス
 - 四年 化学

(体育局長)

年も改まった平成元年、四月からの電子情報工学科の新設もほぼ決まり、入試競争率も平均三、九倍と実質全国高専中のベストワンをマークしたわが有明高専。

全国のほとんどの高専が、その府県名や地名を校名につけているなかで、本校だけが「有明」という広域圏のカムリをつけたのは、二十数年前の創設のとき福岡県大牟田市と熊本県荒尾市の共同誘致となったためで、その敷地も平等に県境にまたがって設定されたことになったのは「有名」なオハナシ。当初、その敷地は国道二〇八号線とJR鹿児島本線にかこまれた県境の船津町附近が予定されたが、国道の騒音や電車の送電線の高圧電流などから出る障害が実験等に悪影響を及ぼすのではという懸念から、現在の萩尾台に決定されたという。

もちろん、現在の敷地も県境にあり、校舎地区が大牟田市、萩尾古墳をへだてて寄宿舍が荒尾市側にある。「東雲映ゆる 小岱の峰さわやかに 吹く風よ」……と親元をはなれた学生が寮生活を送るここ有明寮から学校までわずか数分の通学距離ながら、寮生は毎日県境を越えて往復していることになる。この有明寮のそば近くを川が流れ、まわりの緑にとけこんだ心なごむ水辺の景色とともに、あたりにはまだいなかの田園風景といった風情が残っている。

さて、玉名郡南関町の山地に発した小さな流れは、関川となって県境に沿って熊本県側を蛇行し、有明寮近くの下井手深瀬附近で流れを右に変え、福岡県側に入っ

て諏訪川となり、大牟田市南部の市街地を流れて有明海に注ぐ。全長わずか一九キロの小さな河川であるが、大きな河川のない大牟田市では、菊池川白石堰、荒尾清里水源、久留米筑後大堰からの送水とともに貴重な上水道の取水源ともなっている。

こうした諏訪川のように、熊本、福岡両県を流れ、県境をなす場合、河川法適用区間一九キロのうち、上流一キロは熊本県、下流五キロが福岡県、その中間二キロは左



福岡・佐賀県境の筑後川 佐賀線の列車も今はなく……

フォト・ストーリー

大牟田市の中に
荒尾市、が

飛び地・県境物語 黒田 芳則

か。時代は藩政時代にさかのぼる。もし、タイムマシンのビデオテープでもあれば、歴史の歯車を急速回転で巻き戻し、江戸末期、弘化三年にさかのぼって……。当時、肥後藩に接した筑後柳河原の旧藤田、船津村は灌漑用水不足にあえいでいた。南関から流れ出た関川が下井手附近で柳河原に入り諏訪川となり、両藩を交互にぬうようにして貫流していたのはほぼ今と同じ。このため、その水利権をめぐるいざこざが絶えず、早魃時には血なまぐさ

岸は熊本県、右岸が大牟田市の管理となつて河川管理もややこしい。この諏訪川近くの大牟田市の中に、荒尾市の「飛び地」が四ヶ所あり、一九世帯五十一人の「荒尾市民」が住んでいる。大牟田市の船津、藤田、神田町の中に中洲のように陣どり、陸の孤島のような荒尾市の完全な「飛び地」は、合計一七八八〇平方メートルで、全国でも珍らしいケースとのこと。

では、なぜこのような行政区画上不自然な「飛び地」が生れたのか。時代は藩政時代にさかのぼる。もし、タイムマシンのビデオテープでもあれば、歴史の歯車を急速回転で巻き戻し、江戸末期、弘化三年にさかのぼって……。当時、肥後藩に接した筑後柳河原の旧藤田、船津村は灌漑用水不足にあえいでいた。南関から流れ出た関川が下井手附近で柳河原に入り諏訪川となり、両藩を交互にぬうようにして貫流していたのはほぼ今と同じ。このため、その水利権をめぐるいざこざが絶えず、早魃時には血なまぐさ

第20回吹奏楽部 定期演奏会を終えて

実行委員長

3A 光安 一英

私達吹奏楽部は去る二月四日（土）午後三時より大牟田文化会館大ホールにて、第20回定期演奏会を開催しました。

内容は、オーブニングのアドヴェンチャラス・スピリッツを初めに、1部はオリジナル、アメリカンサリユート、イーグルクレスト序曲、クラシック、交響詩フィランディアを演奏し、2部はポピュラーを演奏しました。今年は20回記念だったのでOBの方々にも参加して頂いて、良い演奏会を行う事ができたと思います。

また来年も一月下旬に、同ホールにて行う予定です。この高専だよりを読まれた方、先生方、学生の皆さんぜひ御来場下さい。最後になりましたが、この演奏会を開催するにあたって、御尽力下さった方々に、部員一同と共に心より御礼申し上げます。また今後とも、御支援頂けるようよろしくお願い致します。



有明高専吹奏楽部定期演奏会